

ふにゅうとうふ
圃場整備事業
船生東部地区（平成18年3月完成）

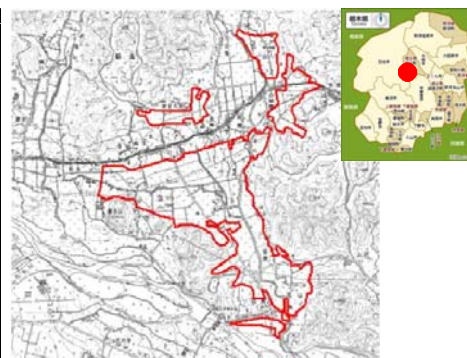
1. 事業概要

本地区は、塩谷郡塩谷町の西部に位置し、一級河川泉川沿岸に広がる水田地帯で、標高は248m～297m、地形は南北に1/130の勾配を有し、水稻を中心とした地域である。

農地は不整形で20a前後の小区画水田が大部分を占め、道路も狭小で屈曲していたことから、効率的・安定的な営農が困難な状況となっており、農業生産基盤の整備が重要な課題となっていた。

このため、農地の大区画化と併せて担い手への農地集積を推進し、排水条件等の改良による転作作物の導入など、農地の高度利用と生産性の高い農業構造の確立を目的として圃場整備事業を実施した。

事業名	県営圃場整備事業	
事業主体	栃木県	
事業箇所	塩谷町	
受益面積	223ha	
受益者数	347人	
整備内容	整地工223ha	用水路工37.6km
	排水路工27.6km	道路工31.5km
	暗渠排水工32ha	
総事業費	27億円	
事業期間	平成4年度～平成17年度	



整備後



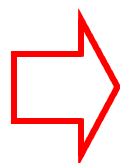
圃場整備と創設した県道バイパス用地



現況土水路



整備された排水路



2. 事業費等の変化

① 項目	事業採択時	事業完成時	増減
受益面積	242ha	223ha	△19ha
総事業費	19.6億円	27億円	7.4億円
工期	H4～H11	H4～H17	

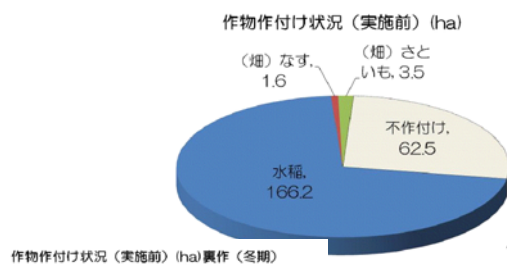
受益面積については、本事業以前に既に個人で大区画化しており、新たな整備に対する意欲が低いこと等により、19haの減となった。また、事業費については、排水路などの増に伴い7.4億円の増となった。

②農作物の作付け状況

事業実施前はほぼ水稲単作の状況であったが、圃場整備事業により乾田化が図られ、転作作物として大豆など約40haが作付けされている。

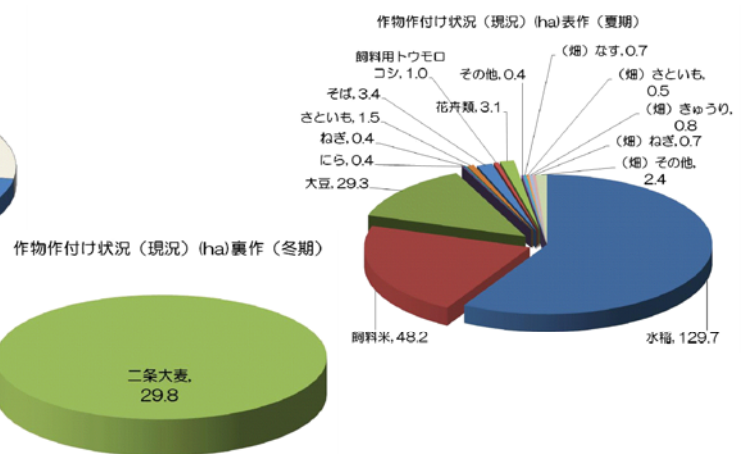
耕地利用率 [実施前] 93% → [現在] 115%

[平成5年度 実施前] 単位：ha



[平成23年度 現在]

単位：ha



大豆



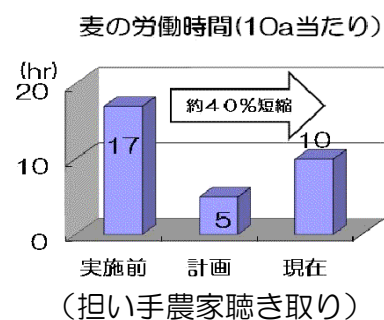
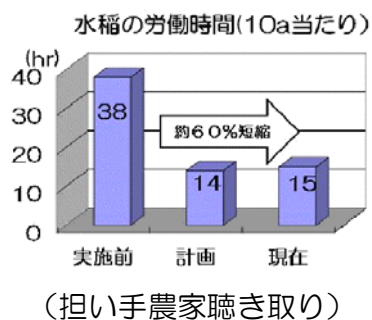
ねぎ



3. 事業の整備効果等

①農作業に係る労働時間の短縮

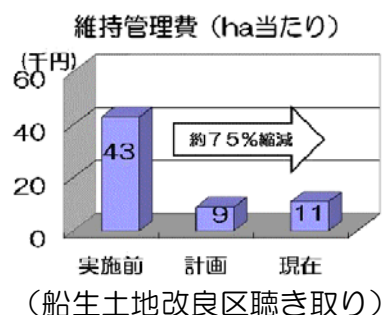
農地の大区画化や農道の整備による大型農業機械の導入により、水稲の労働時間が約60%短縮し、営農効率が向上している。



②維持管理の軽減

用排水、道路の改良整備により、施設に係る維持管理費が約75%節減されている。

維持管理費：43千円/年(実施前)
↓
11千円/年(現在)



③事業を契機とした担い手への農地集積の状況

農地の大区画化や大型機械の導入が可能となり、効率的な農業経営が可能となったことから、担い手農家への農地集積も進み、経営基盤の強化が図られている。

また、平成16年度に建設業者が農業法人アグリしおやを設立し、現在地区内で1.1haを耕作している。

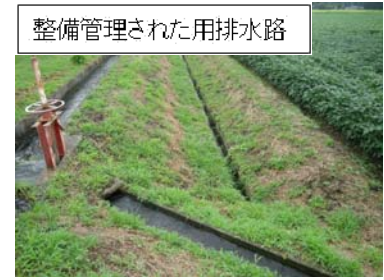
地区内経営面積 (ha) 20ha → 79ha
地区内農地集積率 (%) 8% → 35%

[整備前] [現在]

約4倍 ➔

4. 事業により整備された施設の管理状況

用排水施設は、管理者である船生土地改良区の組合員が年1回の堀ざらいを実施するなど適切な管理が行われている。
農道は、管理者である塩谷町が適切な管理を行い、日常の草刈り等は改良区が行っている。



5. 事業実施による環境の変化

本事業により、狭く屈曲していた農道が整備されたことで通勤・通学など地域の生活道路としても利用されるなど利便性が向上している。



6. 社会経済情勢の変化

特になし

7. 今後の課題等

①農業を支える生産基盤の環境は整ったことから、今後、より一層の農地集積、転作作物の導入などの高度利用、さらには農業用施設の維持管理体制の整備等、地域で一体となった推進が必要である。

①アンケート調査から一部の湿田や用水不足、生活道路の整備充実などの意見が出されており、今後、より一層効果発現が図れるよう、対応策について改良区等を中心とした取り組みが必要である。

[参考：アンケート調査結果について]

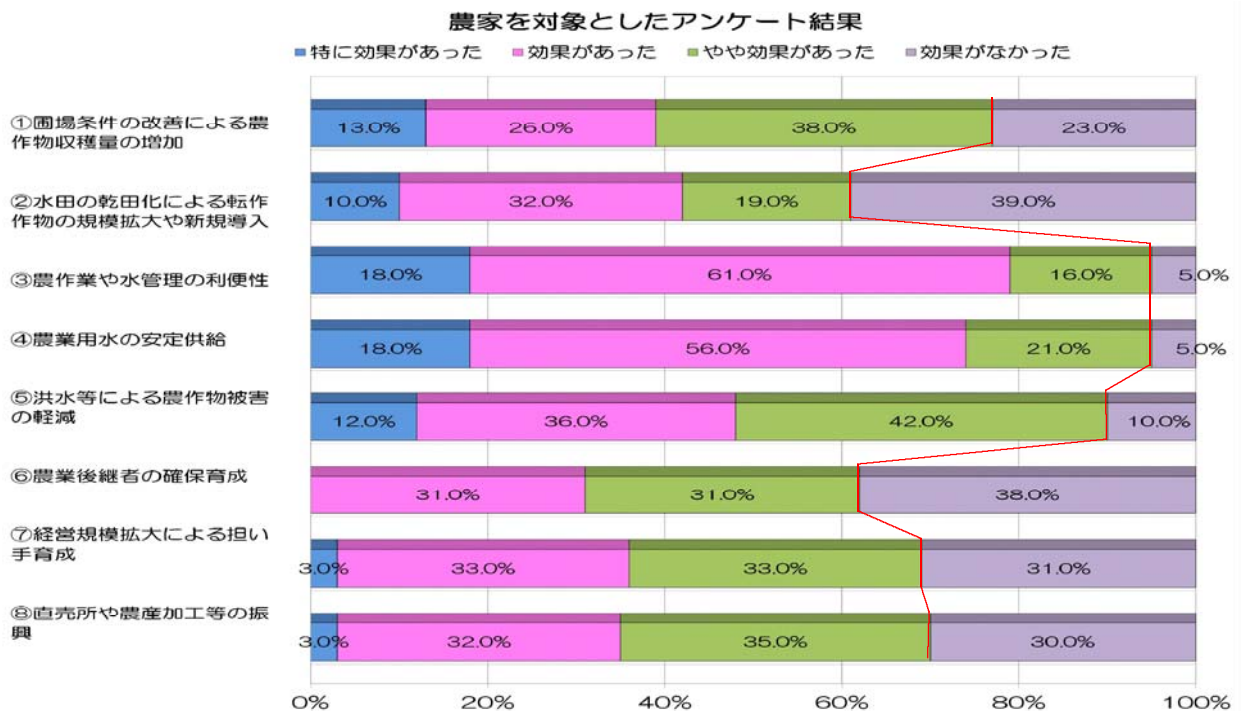
本地区内の農家、非農家を対象に事業の実施に対する効果の発現状況について調査を行った。

(配布戸数 100戸 回答79戸 回答率79% H23,7,25実施)

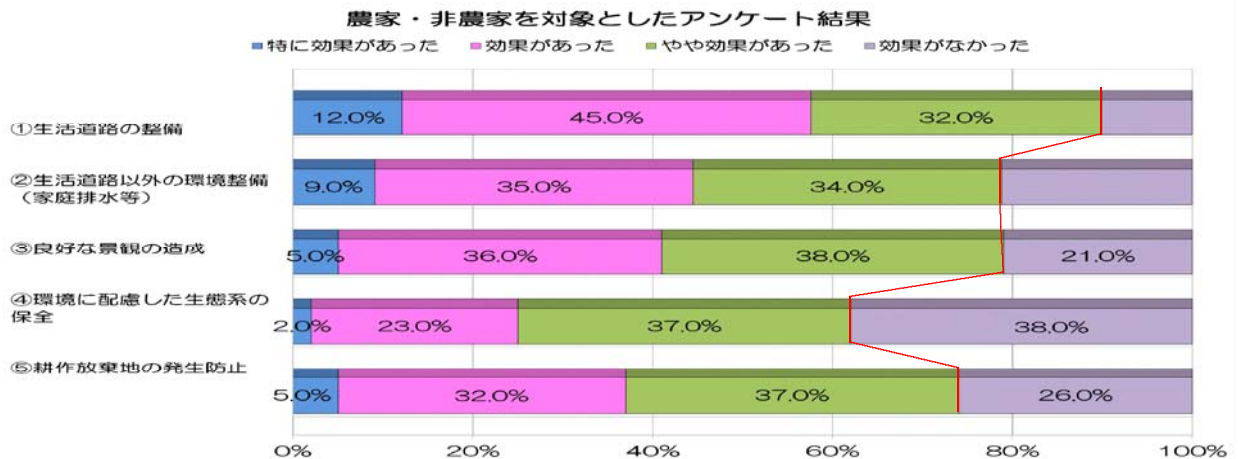
[アンケート結果から考察する地域住民の事業に対する評価]

事業の実施により、農作業や水管理の利便性、農業用水の安定供給など営農面で、高い評価を得ている。また、良好な景観や道路整備など生活環境面でも高評価を得ている。

①農家を対象としたアンケート結果



②農家・非農家を対象としたアンケート結果



③自由意見

【農家】

- ・ 大区画圃場の導入は補助率アップで自己負担軽減上好ましく思う、反面、就農者の高齢化に耕起、田植え、収穫作業には問題ないが、中規模農家の防除や追肥などの作業には大区画圃場は必ずしも好ましくないと感じた。防除作業などは周囲の畦畔を利用し水田内に入れない実態が目につく。
- ・ 1 番水を必要とする時期（春の入水、代かき時、夏の出穂期）に水が足りない。日中は水があるが、夜間に水が足りない。
- ・ 従前地には農道がない圃場が多く見られたが整備後はすべての圃場に農道等の進入が容易になったことが機械化が進む今日では極めて望ましい事業であった。
- ・ 先ず農道等が良くなって作業面においても非常に良いと思います。又、田んぼの境界もはっきりして。
- ・ 圃場整備は日本の農業存続に不可欠の事業だと思います。何故なら農業の生産性向上、作業効率向上、機械化重労働の軽減に直結していると思うから。
- ・ 生態系の保全、住環境の整備・向上の面から水路の有様（整備方法）を変えていただきたい。現在の耕地拡大の為に最小の水路面積 = コンクリート側溝方式をより自然流路に近く方面傾斜をなだらかにし、川幅を拡げて多様な生物が生息できる環境とし想定外の降雨等に対応できる流量の確保とすべきである。
- ・ 用水路・生活廃水路が区別され非常に良好と思われるが、それと同時に生き物の生態系が非常に悪くなった。今後の圃場整備はこのようなことのないよう大なる反省が必要です。
- ・ 以前に土地改良区の方に話をいたしました。排水路に常に泥がたまっていて、どぶ状態です。年に数回堀さらいをしています。何とか流れるようにしていただきたい。
- ・ 土手の巾が狭くて、草刈る時危ない。
- ・ 山すそのため機械、田植機等が入らない箇所がある。
- ・ 農業を守ることは絶対に必要です。しかし、その為に動植物を犠牲にした圃場整備は間違いでした。コンクリート水路は特に生態系に悪影響です。
- ・ 自作から貸付した。やはり貸付するには小さい田では、やはりやって良かったのかと思います。
- ・ 道路等整備されたが大雨の対策がされていない。排水路に逆流する。現地確認されたい。泥水を軽視してはいけないと思う。

【非農家】

- ・ このアンケートは会社員に聞く必要はないと思う。農家の人対象にやれば良い。

栃木県 農政部 農地整備課

TEL : 028-623-2364 FAX : 028-623-2378

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g07/index.html>

E-mail : nochiseibi@pref.tochigi.lg.jp

